

[特集]百日咳

その咳、長く続いていませんか？

百日咳

もう何週間も咳が出続けている...もしかしてこれって、今はやりの百日咳??

ひやく ぜき にち

ここ最近、全国的に百日咳の感染者数が増加しています。百日咳は、子どもだけでなく大人や高齢者もかかる呼吸器の感染症で、特に高齢の方が発症すると重症化のリスクが高く注意が必要です。ご自身の健康を守るために、ぜひこの機会に正しい知識を身につけておきましょう。



単なる風邪...と思わず
咳が長引くときは
医療機関を
受診しましょう。

百日咳とは

百日咳は、「百日続く咳」と言われるほど、長く続く咳が特徴の感染症です。正式には「細菌による呼吸器の病気」で、飛沫感染・接触感染で周囲にうつりますが、「非常にうつりやすい」ことも特徴です。1人の患者が平均10人以上にうつすと言われています。



大人では、熱もなく咳をしているだけの人も多いです。しかし、高齢者が罹患すると、体力の消耗や肺炎のリスクが高まり、重症化することもあります。また、新生児・乳児もかかると重症化しやすいです。哺乳不良・肺炎・脳症などを起こすことがあります。五種混合ワクチンを接種完了していない赤ちゃんにうつさないよう、十分に気をつけてください。

高齢者・新生児・乳児は重症化しやすいのでご注意ください!



主な症状と経過

初期症状(カタル期)

感染から1〜2週間

- 軽い咳
- くしゃみ
- 鼻水
- 微熱

症状が風邪とよく似ているため、見逃されやすいのが特徴。

痉咳期

感染から2〜4週間以降

- 連続して咳き込む、発作的な咳
- 「ヒュー」と音が出るような呼吸
- 咳きこんで嘔吐
- 眠れないほどのひどい咳

この時期の咳は、非常に激しく、苦しいのが特徴。

このような症状があれば医療機関を受診しましょう!



回復期

感染から4週間以降〜数ヶ月

徐々に徐々に咳発作が少なくなり、咳が落ち着いていきます。

診断と治療

診断

- 培養検査・核酸検査

鼻や喉から綿棒を入れて、ぬぐい液で細菌の検出を行う

- 血液検査

血液を採取し抗体価を調べる

- 胸部レントゲン

肺炎などの合併症確認 など

治療

- 抗生物質の継続服用
- 抗生物質を服用して菌を死滅させる

- 十分な休養と水分補給

痰を出しやすくするために水分をしっかり補給し、十分な休養と栄養を摂る



予防方法

百日咳ワクチン

通常、乳幼児期に五種混合(または四種混合)ワクチンとして接種しています。しかし、5〜10年ぐらいでワクチンによる免疫が低下すると言われています。そのため、現在は追加接種として大人でも受けられる三種混合ワクチンがあります。

予防接種を受けることで、感染リスクを減らせます。まずは自身の予防接種状況を確認し、未接種の場合は、医師に相談してください。

手洗い・うがい

風邪予防と同様に、毎日の手洗い・うがいを徹底しましょう。



「ただの風邪」と思っていたら百日咳だった、というケースも珍しくありません。2週間以上咳が続くときは、必ず医師に相談しましょう。

(監修:小児科 山下 信子)